

KENWOOD

特定小電力トランシーバー

TCP-U80

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる場所に保存してください。
本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

お客様へ

本書で  販売店 と表示されている箇所は、販売店での設定により使用可能な機能です。詳細については、お買い上げの販売店にお尋ねください。

© B62-1670-00
09 08 07 06 05 04 03 02 01 00

目次

安全上のご注意	4
---------------	---

ご使用の前に

ご使用にあたって	10
準備する	12
付属品を確認する	12
電池について	12
電池の入れ方	14
充電のしかた	15
ベルトフックを取り付ける	16
ヘッドセットやスピーカーマイクロホンを取り付ける （オプション）	17
各部の名称	18
本体	18
表示部	20

基本操作

通話する（ノーマルモード）	22
電源を入れる	22
送信する	22
受信する	23
電源を切る	23

応用操作

運用モードの確認	24
通話する（レピーター運用モード）	25
グループで通話する（グループモード）	28
通話を聞かれないようにする（スクランブルモード）	30

呼び出し音を振動にする（振動着信モード）.....	32
誤ってキーが押されるのを防ぐ（キーロック）.....	33
話すだけで自動送信する（VOX）.....	34
相手をコールトーンで呼び出す	35
セレコールを使う	36
ファンクション設定について	38
ファンクション設定機能一覧	38
こんな機能もあります	42

その他

故障かな？と思ったら	44
初期設定の状態に戻す（オールリセット）.....	46
オプション（別売品）について	47
スピーカーマイクロホン（SMC-34）について	48
保証とアフターサービス	49
仕様	50

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容(表示と意味)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。



危険

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



絵表示の例

⚠ 記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容を示しています。



⊘ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容を示しています。



● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容(左図の場合はACアダプターをACコンセントから抜け)を示しています。

- ・ お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、またはこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠ 危険

電池パックの取扱について

電池パックは以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

- 充電温度範囲は、5 ~ 40 です。この温度範囲以外では充電しないでください。 
- 専用充電器以外では充電しないでください。 
- 本機以外の機器に取付けしないでください。 
- 火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしないでください。 
- 端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。 
- 液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。 
- 液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。 

⚠ 警告

使用環境・条件

- 交通安全上、運転しながら交信するのはおやめください。 
- 電子機器(特に医療機器)の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。 
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では、絶対に使用しないでください(電源も入れないでください)。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたすおそれがあります。 
- 本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。 

充電器の取扱について

- AC100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- タコ足配線はしないでください。過熱・発火の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグに触れたり、電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグはACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
- 電源プラグの端子にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災や感電の原因になります。



使用方法について

- 長時間の連続送信はしないでください。本体の温度が上昇して、やけどの原因となります。
- アンテナのごく近くに人・動物・ペット等がいるときは、電波を発射しないでください。やけど、目の異常の原因となります。
- 本機に水をかけたり、水が入ったり、ぬらさないよう、ご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。
- 水などで濡れやすい場所(風呂場など)では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



異常時の処置について

- 内部に水や異物が入った場合や、落したり、ケースを破損した場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの、異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
- 煙りが出たら、すぐに電源スイッチを切り、電池パックを外し、充電中は電源プラグをACコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源スイッチを切り、充電中は電源プラグをACコンセントから抜いて、ご使用をおひかえください。



保守・点検

- 本機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

⚠注意

使用環境・条件

- テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
- 直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。
- 湿気が多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



充電器の取扱について

- 充電器のコードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 充電器の電源コードを抜くときは、必ずプラグを持ってください。コードを引っばると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。



使用方法について

- アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。
- SP/MIC 端子にはオプションのヘッドセットやスピーカーマイクホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間使わないときは、電源スイッチを切り、電池パックを外して、充電器は電源プラグをACコンセントから抜いてください。



保守・点検

- お手入れの際は、電源スイッチを切り、電池パックを外して、充電器は電源プラグをACコンセントから抜いてください。
- 水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。



電波法に関するご注意

- 本機裏面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線機の使用が禁止されている所があります。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内などでは使用しないでください。

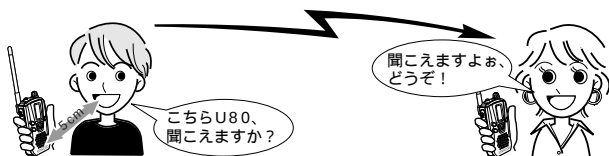
ご使用にあたって

- 本機は2つの運用モードを搭載した、特定小電力トランシーバーです。
ノーマルモードでは20チャンネルに対応し、従来の9チャンネルと11チャンネルのどちらとでも交信できます。
また、レピーター運用モードでは27チャンネルに対応し、従来の9チャンネルと18チャンネルのレピーターのどちらとでもアクセスできます。

・ノーマルモード（シンプレックス）

1～11チャンネル：従来の11チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます。

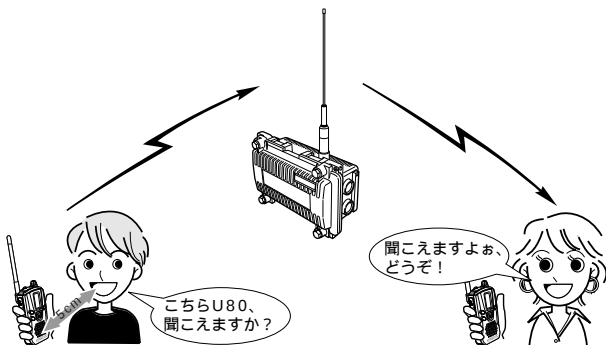
h1～h9チャンネル：従来の9チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます。



・レピーター運用モード（セミデュプレックス）

1～18チャンネル：従来の18チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます。

h1～h9チャンネル：従来の9チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます。



- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。
建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。
 - ・ 市街地 100 ~ 200m
 - ・ 高速道路上の車と車 300 ~ 500m
 - ・ 見通しのよい場所 1 ~ 2km
- 本機は多少の水滴がかかったり、濡れた手で使っても安心な日常生活防水仕様です。(JIS 保護等級 4 防沫型相当) ただし、水をかけたり、水の中に落としたりすると故障の原因になりますのでご注意ください。また、本機が濡れたまま充電すると、故障の原因になりますのでご注意ください。本機が濡れた場合は、乾いた布でよくふき取ってから充電器に差し込んでください。
- SP/MIC端子にオプションのヘッドセットやスピーカーマイクロホンを接続している場合は、防水効果はありません。なお、オプションを接続しない場合は、防水効果をもたせるため、SP/MIC端子のカバーは取り付けた状態でご使用ください。
- 激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。

ご注意

- テレビ、ラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

準備する

付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

- ・本体 1
- ・電池カバー 1
- ・充電式リチウムイオン電池 (UPB-3L) 1
- ・充電器 (W08-0529-XX) 1
- ・AC アダプター (W08-0528-XX) 1
- ・ベルトフック (J29-0465-XX) 1
- ・マイクプラグ固定金具 (J21-8344-XX) 1
- ・保証書 1
- ・サービス一覧表 1
- ・取扱説明書 (本書) 1

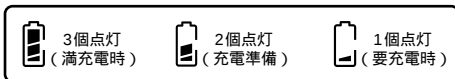
電池について

電池の使用可能時間のめやす

- リチウムイオン電池の使用可能時間は約 16 時間です。
測定条件：送信 6 秒、受信 6 秒、待ち受け 48 秒を繰り返したとき。

電池の残量表示について

- 電池の残量目安を三段階で表示します。
1 個点灯になると、警告音が「ピーピーピー」と 4 回鳴り、電池が消耗していることをお知らせします。早めに電源を切り電池を充電するか、予備と交換してください。電池が消耗していると、電源を入れるたびに警告音が鳴ります。



バッテリーセーブについて

- 電池の消耗を防ぐ機能です。受信待ち受け状態で約 5 秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作が行われるとバッテリーセーブは解除されます (→ 42 ページ)。

電池パックの特性について

- 電池を初めて使用する前には、必ず充電を行ってください。
- 充電 / 放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら電池の劣化が進みます。
- 高温状態で充電 / 放電を行ったり、無線機を使用すると寿命が短くなります。また、高温状態での保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- お買い上げ後または長期間保存後は、電池容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。

KENWOOD使用後は
リサイクルへ

Li-ion CO 充電式電池

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
リサイクルにご協力をお願いいたします。

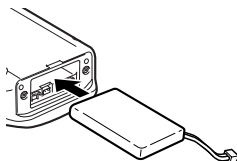
ご注意

- お買い上げ時は満充電にしておりません。お使いになる前に専用の
- 長時間お使いにならないときは、電池を本機から取り出しておいてください。
- バッテリーセーブは、オートチャンネルセレクト中とモニター中は動作しません。
- 電池パックの端子をショートさせたり、電池パックを火中に投げたりしないでください。また、電池パックを分解しないでください。
- 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、電池の寿命です。このまま充電 / 放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しい電池パックをお買い求めください。

電池の入れ方

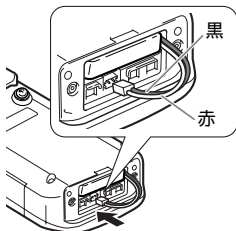
1 付属の電池を収納部に入れる

電池はラベル面がスピーカー側になるようにしてください（右図では下側がラベル面）。



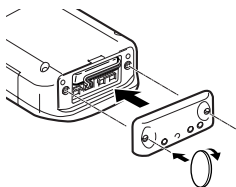
2 電池の電源端子を本体に取り付ける

端子は赤色のコードが左側になるようにして、確実に差し込んでください。取り付けが終了したら、コードは電池の上を通し、金色の充電器用端子の上にコードがかぶさらないように注意してください。



3 電池カバーを取り付ける

電池カバーと本体の間に隙間ができないように注意してください。防水機構になっていますので、ねじはコイン等を使用して完全に締め付けてください。



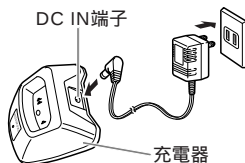
電池を取り外す

手順 3 → 1 へ、取り付けと逆の作業を行います。

充電のしかた

はじめてお使いになるときや、使用後は必ず充電してください。

- 1 ACアダプターのプラグを充電器のDC IN端子に差し込む



- 2 ACアダプターを電源コンセントに差し込む

- 3 本機の電源をOFFにして充電器に差し込む

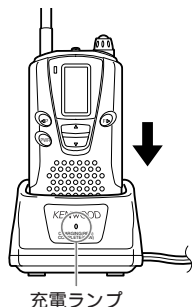
充電ランプが赤色に点灯します。

- 4 充電ランプが緑色に点灯して、充電が完了する

本機を抜き取ります。
充電時間の目安は約4時間です。
充電ランプの表示について

赤色：充電中

緑色：充電完了時



ご注意

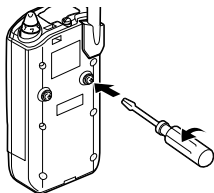
- 必ず専用のリチウムイオン電池を使用して充電してください。指定以外の電池を用いて充電すると故障の原因になります。
- 充電性能に影響を与えますので、充電中は本機の電源を必ずOFFにしてください。
- 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、電池の寿命です。このまま充電/放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しい電池パックをお買い求めください。
- 充電器の端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。

準備する

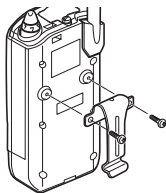
ベルトフックを取り付ける

ベルトフック取り付けネジ (3mm × 4mm) は、あらかじめ本体に取り付けてあります。

- 1 本体裏側のネジ 2 本を取り外す

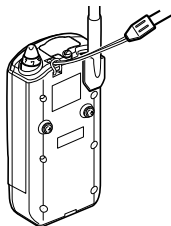


- 2 付属のベルトフックと本体のネジ穴を合わせて、ネジで止める



市販品のストラップを取り付けたいときは・・・

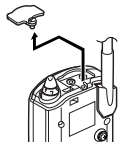
本体上部のストラップ取り付け穴に、ストラップの紐を取り付けます。



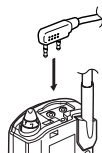
ヘッドセットやスピーカーマイクロホンを取り付ける (オプション)

ヘッドセットやスピーカーマイクがSP/MIC端子から外れるのを防ぐために、マイクプラグ固定金具は必ず取り付けてください。

- 1 本体上部のSP / MIC端子カバーのネジをコイン等を使用してゆるめ、カバーを取り外す

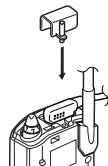


- 2 ヘッドセットまたはスピーカーマイクロホンのプラグを取り付ける



- 3 ヘッドセットまたはスピーカーマイクロホンのプラグを固定金具で止める

ネジはコイン等を使用して確実に締め付けてください。

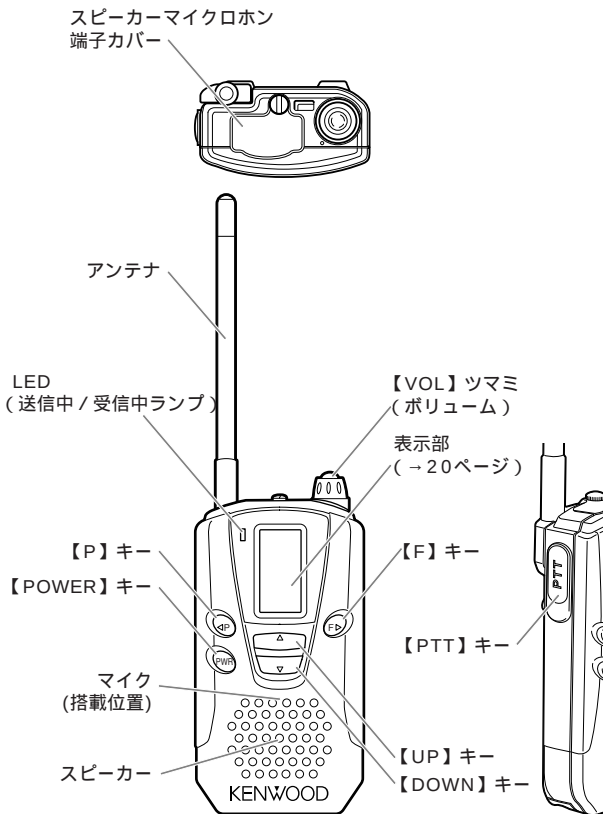


ご注意

- ヘッドセットやスピーカーマイクロホンを取り外すときは、プラグ部をしっかりとって取り外してください。ケーブルを持って取り外すと、故障の原因になります。

各部の名称

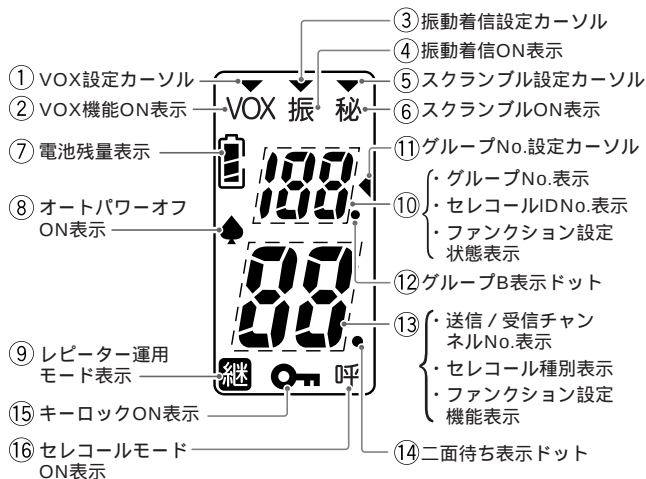
本体



キーの名称	通常の動作
【POWER】	・電源のON / OFF
【PTT】	・送信（押している間のみ） ・コールトーン1の送出（＋【DOWN】） ・コールトーン2の送出（＋【UP】）
【UP】	・チャンネルアップ（1秒以上押すと早送り） ・グループ番号のアップ（1秒以上押すと早送り） ・スクランブル機能のON / OFF（スクランブル機能設定時） ・振動着信機能のON / OFF（振動着信機能設定時）
【DOWN】	・チャンネルダウン（1秒以上押すと早送り） ・グループ番号のダウン（1秒以上押すと早送り） ・スクランブル機能のON / OFF（スクランブル機能設定時） ・振動着信機能のON / OFF（振動着信機能設定時）
【F】	・設定 / 変更する機能の選択、確定 （チャンネル→グループ番号→スクランブル→振動着信→VOXの順に選択） ・キーロックの設定 / 解除（＋【POWER】）
【P】	・割り当てられた機能  販売店 ・ファンクション設定（＋【POWER】）

各部の名称

表示部



参考

- 電源を入れてから5秒間表示部の照明が点灯します。【PTT】以外のキー操作を行うと、再び点灯します。【PTT】以外のボタンを押し続けている間も、点灯し続けます。

表示	No.	意 味
▼ VOX	①	VOX機能のON / OFFを設定するときに点滅
	②	VOX機能がONに設定されているときに点灯
▼ 振	③	振動着信モードのON / OFFを設定するときに点滅
	④	振動着信がONに設定されているときに点灯
▼ 秘	⑤	スクランブルモードのON / OFFを設定するときに点滅
	⑥	スクランブルがONに設定されているときに点灯
	⑦	電池の残量を表示
	⑧	オートパワーオフがONに設定されているときに点灯
	⑨	レピーター運用モードに設定されているときに点灯
188.1	⑩	グループNo.表示 セレコールIDNo.表示  販売店 ファンクション設定状態表示
	⑪	グループNo.を設定するときに点滅
	⑫	グループB No.のときに点灯
88.	⑬	送信 / 受信チャンネルNo.表示 セレコール種別表示  販売店 ファンクション設定機能表示
	⑭	二面待ちが設定されているときに点灯
	⑮	キーロックがONに設定されているときに点灯
呼	⑯	セレコール機能を使用するときに点灯  販売店

通話する（ノーマルモード）

相手の方と同じチャンネル番号を設定し、送信 / 受信を切り換えながら通話します。あらかじめ、運用モードを確認しておきます（→ 24 ページ）。

電源を入れる

1 【POWER】を 1 秒以上押す

電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

2 【VOL】を回し、音量を上げる

3 【UP】または【DOWN】を押す

チャンネル番号を合わせます。

【UP】または【DOWN】を 1 秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。従来の 11 チャンネル機と交信するときは、1 ~ 11 に合わせます。

従来の 9 チャンネル機と交信するときは、h1 ~ h9 に合わせます。



例：3 チャンネルに合わせた場合



例：h3 チャンネルに合わせた場合

送信する

4 【PTT】を押しながら話す

LED が「赤」に点灯し、送信状態になります。マイク部から口を 5 cm くらい離してお話してください。

連続通信時間は 3 分間です。

続けて通信するときは、送信停止 2 秒後に【PTT】を押して相手を呼び出してください。

赤色点灯



ご注意

- LED が「緑」に点灯中に【PTT】を押すと、「ブー」と鳴り送信できません。相手の方からの送信が終了し、LED が消灯したら【PTT】を押して送信します。

受信する

5 【PTT】から指を離す

受信待受の状態で相手から送信されると、LEDが「緑」に点灯します。



手順 4 と 5 の操作を繰り返して、通話します。

電源を切る

6 【POWER】を 1 秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

通話時間終了の予告

本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通話終了の 30 秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10 秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3 分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

ご注意

- 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方と共に、他のチャンネル番号を設定してください。
- 「近距離（約 10m 以内）に他のチャンネルを使用しているトランシーバーがあると、h7 と 1、h8 と 2、h9 と 3 チャンネルの組み合わせで混信をおこす場合がありますので、多数のグループが近距離で運用する場合は、同一グループチャンネル（h1 ～ h9 または 1 ～ 11 チャンネル）内での運用をお勧めします。
- キーロックを ON にすると、通話中に間違えてキーを押してもチャンネルやモードは変わりません（→ 33 ページ）。

参考

- 本機には、基本通話の他に 2 種類の通話方法があります。必要に応じて設定してください。通話のしかたは基本通話と同じです。
グループモード...仲間どうして通話したいとき（→ 28 ページ）
スクランブルモード...他の人に通話を聞かれたくないとき（→ 30 ページ）

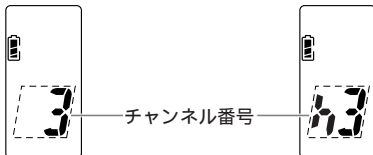
運用モードの確認

本機には、次の2つの運用モードがあります。使用目的により、どちらのモードでも選択することができます(→38ページ)。ただし、運用モードのちがう相手との通信はできません。

● ノーマルモード

本機どうして直接相手局と通信を行うときに設定します。

レピーターを使用することはできません。

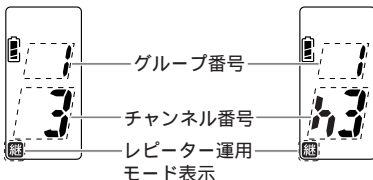


● レピーター運用モード

レピーター（中継機）を介して相手局と通信を行うときに設定します（「継」が点灯する）。

本機の通話エリアが拡大されます。

本機どうして直接通信することはできません。



ご注意

- 相手またはグループ全員が同じ運用モードに設定されてないと通信できません。
- レピーター運用モードに設定したときは、オプションのレピーターを併用しないと通話できません。

通話する（レピーター運用モード）

レピーター運用モードで通話するには、双方のチャンネルとグループ番号（→28ページ）をレピーターのチャンネルとグループ番号に合わせておきます。



使用するレピーターの機種により、レピーターアクセスモードを販売店にて設定する必要があります。

電源を入れる

1 【POWER】を1秒以上押す

電源が入り、チャンネル番号が表示されます。

2 【VOL】を回し、音量を上げる

3 【UP】または【DOWN】を押す

チャンネル番号を合わせます。

【UP】または【DOWN】を1秒以上押すと、押し続けている間チャンネル番号が早送りされます。

従来の18チャンネル機と交信するときは、1～18に合わせます。

従来の9チャンネル機と交信するときは、h1～h9に合わせます。



例：3cH、グループ1に合わせた場合



例：h3cH、グループ1に合わせた場合

ご注意

- レピーター運用モードではグループ「101～183」は使用できません。

送信する

4 【PTT】を押し続ける

レピーターアクセスを確認します。
アクセス音（ピッ）が鳴ったら【PTT】を押し
たまま、手順 5 へ移ってください。
エラー音（ピッピッピッ...）が鳴ったら手順 4
の操作を繰り返します。

5 【PTT】を押しながら話す

LED が「赤」に点灯し、送信状態になります。
マイク部から口を 5 cm くらい離してお話しく
ださい。

連続通信時間は 3 分間です。
アクセスが外れたり、通話時間が終了したら
再度手順 4 から操作してください。

続けて通信するとき、送信停止 2 秒後に
【PTT】を押して相手呼び出ししてください。



受信する

6 【PTT】から指を離す

受信待受の状態では相手から送信されると、LED
が「緑」に点灯します。

手順 5 と 6 の操作を繰り返して、通話します。



ご注意

- レピーター運用モードにて振動着信モード（→ 32 ページ）を設定している場合は、振動機能が動作するまで、レピーターアクセス音が鳴ってから、さらに 2 秒ほど【PTT】を押し続けてください。

電源を切る

7 【POWER】を1秒以上押す

表示が消え、電源が切れます。

通話時間終了の予告

本機の1回の通信時間は、送信・受信を合わせて3分間です。通話終了の30秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3分を経過すると送信禁止音とともに送信を停止し、受信待ち受け状態に戻ります。

ご注意

- レピーター運用モードに設定すると自局のチャンネル番号とグループ番号がレピーターのチャンネル番号とグループ番号に一致したときのみ通信可能となります。
- 運用モードを切り替えると、チャンネル番号、グループ番号、オートチャンネルセレクト、スクランブルモード、振動着信モードの各設定は、初期設定時の状態に戻ります。
- 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方とともに、他のチャンネル番号を設定してください。
- キーロックをONにすると、通話中に間違えてキーを押してもチャンネルやモードは変わりません（→ 33 ページ）。

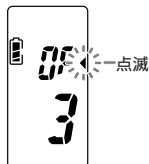
グループで通話する（グループモード）

他のグループと同じチャンネルで交信している場合、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間どうしでグループモードを設定しておく、混信がなくなって快適に通話ができます。

設定する

1 【F】を1秒以上押す

グループ設定カーソルが点滅し、「OF（OFF）」が表示されます。
レピーター運用モードでは、現在設定されている番号が表示されます。



2 【UP】または【DOWN】を押す

「1～38」または「101～183」から選んでください。



3 【PTT】を押す

グループ番号が設定されます。



二面待ち機能（「2つのグループ番号を使う」→38ページ）をONに設定している場合は2つのグループ番号の選択が可能です。

解除する

1 【F】を1秒以上押す

2 【UP】または【DOWN】を押す

「OF（OFF）」を表示させます。



3 【PTT】を押す

グループ番号の設定が解除されます。

ご注意

- レピーター運用モードではグループ「101～183」は使用できません。
- 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、LEDが「緑」に点灯します。この時に【PTT】を押しても「ブー」と鳴って送信できません。
- バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返し行なうため、LED（緑色）が点滅することがあります。
- レピーター運用モードで使用中にグループモードを解除すると、レピーター（中継器）は動作しなくなります。
- レピーター運用モードにおいて、グループモードを解除する場合、レピーターのグループ番号もOFFに設定してください。
- チャンネル番号、グループ番号、スクランブルモードの設定は、通話する相手の方と設定を合わせてください。設定を合わせないと通話できません。

参考

- 10秒以上操作を行わない場合、手順2で選択した状態が自動的に設定されます。
- 一度設定したグループ番号は、全チャンネル共通で使えます。
- 【UP】または【DOWN】を1秒以上押し続けると、グループ番号は早送りされます。

通話を聞かれないようにする（スクランブルモード）
グループモード時にスクランブルモードを設定すると、スクランブルモードを設定していない人は会話を聞き取れなくなります。
あらかじめグループ番号を設定してください（→ 28 ページ）。

設定する

1 【F】を 1 秒以上押す

2 【F】を 1 回押す

スクランブル設定カーソルが点滅します。



3 【UP】または【DOWN】を押す

「秘」を点灯させます。



4 【PTT】を押す

スクランブルモードが設定されます。

ご注意

- グループ番号とスクランブルモードが一致した場合、第三者でも通信を傍受できます。高度な機密を要する通話では、本機のご使用をお薦めいたしかねます。

参考

- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 3 で選択した状態が自動的に設定されます。
- グループモードを OFF にすると、スクランブルモードも OFF になります。

解除する

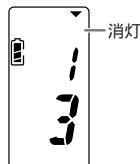
1 【F】を 1 秒以上押す

2 【F】を 1 回押す

スクランブル設定カーソルが点滅します。

3 【UP】または【DOWN】を押す

「秘」を消灯させます。



4 【PTT】を押す

スクランブルモードが解除されます。

応用操作

グループで通話する（グループモード）

ご注意

- チャンネル番号、グループ番号、スクランブルモードの設定は、通話する相手の方と設定を合わせてください。設定を合わせないと通話できません。

参考

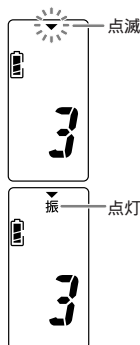
- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 3 で選択した状態が自動的に設定されます。

呼び出し音を振動にする(振動着信モード)

呼び出されたことを、本機の振動によって知ることができます。音を出したくないときや、騒音で音が聞こえないときなどに便利です。

設定する

- 1 【F】を1秒以上押す
- 2 【F】を1回押す
(グループモードON時は2回)
「振動着信設定カーソル」を点滅させます。
- 3 【UP】または【DOWN】を押す
「振」を点灯させます。
- 4 【PTT】を押す
振動着信モードが設定され、約1秒間振動します。



呼び出されたとき

- 1 本機が約10秒間振動する
- 2 【PTT】を押し、送信する

振動は止まり、「振」表示が点滅します。
点滅中に受信音声が出ます。

ご注意

- レピーター運用モードのとき、送信してレピーターアクセスに成功すると、「振」表示は点滅します。失敗すると「振」表示は点灯のままです。
- 振動機能はLEDが点灯してから若干遅れて動作します。
- セレコール使用時やレピーター運用モードのときは、相手の振動着信が開始されるまで2秒ほどかかります(レピーター運用モードはアクセスが成功してから2秒ほど)。通常より【PTT】を長く押し続けてください。
- 「振」表示が点滅中は相手から呼び出されても振動しません。
- 「振」表示の点滅は30秒間送信せず、呼び出しもないときは点滅を終了します。
- グループ番号を設定している場合、そのチャンネルが信号を受信しても、グループ番号が一致しないときは振動しません。

参考

- 設定中に、10秒以上操作を行わない場合、手順3で選択した状態が自動的に設定されます。

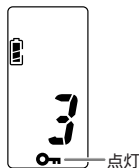
誤ってキーが押されるのを防ぐ(キーロック)

通話中はキーロックしておく、間違えてキーを押しても動作しないように設定できます。

設定する

- 1 一度電源を切る
- 2 【F】を押しながら【POWER】を押して電源を入れる

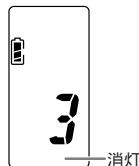
「」表示が点灯します。
キーロックが設定され、【POWER】【PTT】【VOL】以外は動作しなくなります。



解除する

- 1 一度電源を切る
- 2 【F】を押しながら【POWER】を押して電源を入れる

「」表示が消灯します。
キーロックが解除されます。



参考

キーロック中でも以下の機能は動作します。

- 電源ON / OFF
- 送信
- コールトーン送出
- キーロック解除
- ファンクション設定
- オールリセット
- モニター ON / OFF

話すだけで自動送信する (VOX)

【PTT】を押さなくても、マイクに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で受信待ち受け状態になります。

設定する

- 1 【F】を 1 秒以上押す
- 2 【F】を 2 回押す
(グループモード ON 時は 3 回)

「VOX 設定カーソル」を点滅させます。



- 3 【UP】または【DOWN】を押す

「VOX」を点灯させます。



- 4 【PTT】を押す

VOX モードが設定されます。

ご注意

- VOX は確認音が鳴っているとき、コールトーンが設定されているとき、およびスケルチが開いているときは使用できません。
- 電池の量が少なくなると、VOX は使用できなくなります。表示部の電池残量表示が減り始めたら早めに電池パックを充電してください。
- VOX と振動着信モード (→ 32 ページ) は同時に設定できません。VOX を ON にすると振動着信モードは OFF になります。
- 信号を受信しているときは、送信できません。
- 別売品の KMC-21、SMC-34、EMC-2B、および EMC-3 は【PTT】を押さないとマイクが正常に動作しないため、VOX 機能を使用することはできません。

参考

- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 3 で選択した状態が自動的に設定されます。
- マイクの感度や送信終了の遅延時間を設定することができます (→ 41 ページ)。

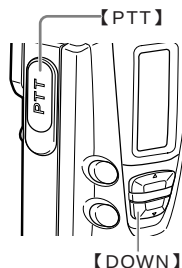
相手をコールトーンで呼び出す

相手を電話の呼出音のような音(コールトーン)で呼び出すことができます。各コールトーンは、操作時に設定されている音色で鳴り、確認することができます。

コールトーン 1 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【DOWN】を押す

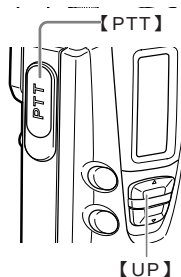
押している間コールトーン 1 が送信されます。



コールトーン 2 で呼び出すとき

【PTT】を押したまま【UP】を押す

押している間コールトーン 2 が送信されます。



販売店

本機の【P】キー、またはマイクロホンの【1】、【2】、【3】のキーに、コールトーン 3-1、コールトーン 3-2、グループ B が設定してある場合は、それらのキーを押してコールトーンを送出することができます。また、コールトーンの音色を変更することもできます。

ご注意

- セレコールでは、コールトーンを使用できません。

応用操作

相手をコールトーンで呼び出す

セレコールを使う



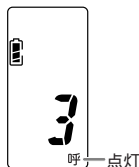
セレコールを使用すると、個別、グループ、グループ代表者または、全局一斉にと自由を選択して呼び出すことができます。

また、不在中に連絡があったことを知らせることもできます。

呼び出す

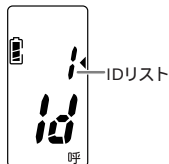
1 【P】を1秒以上押す

「呼」が点灯し、セレコールモードになります。



2 【P】を押す

ID リストを表示します。



3 【UP】または【DOWN】を押す

呼び出す ID リストを選択します。

個別呼び出し

相手局を個別に呼び出して通話できます。「10 (Id)」が表示されます。

グループ呼び出し

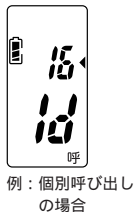
グループを呼び出して、グループ内すべての相手と通話できます。「10 (GP)」が表示されます。

グループ代表呼び出し

違うグループの同じIDの相手呼び出して通話できます。「10 (SP)」が表示されます。

一斉呼び出し

すべての相手局を呼び出して、すべての相手と通話できます。「10 (AL)」が表示されます。



例：個別呼び出しの場合

4 【PTT】を押す

呼び出しが開始されます。
相手が受信すると呼び出し音が鳴り、通話できます。

受信する

1 【P】を1秒以上押す

「呼」が点灯し、セレコールモードになります。

2 呼び出し音が鳴る

呼び出された相手と通話できます。
「振動着信モード」(→32ページ)に設定してある場合は、受信音声の代わりに振動でお知らせします。

終了する

【P】を1秒以上押す

「呼」が消灯し、通常の受信待ち受けに戻ります。

ご注意

- 通話中の局を呼び出すことはできません。
- TCB-U700を使用している時は、セレコールID一致しなくても、グループ番号が一致した場合にレピーターが接続動作しますが、通話できません。
- セレコールで振動着信モードを設定している場合は、振動機能が動作するまで、2秒ほど【PTT】を押し続けてください。
- セレコール使用時には、二面待ち機能は動作しません。

ファンクション設定について

本機では通常の機能のほかに、以下のような機能が設定できます(詳細は40ページ)。

ファンクション設定機能一覧

機 能	画面表示	設定範囲
ランプを常に点灯させる	 (LP)	OFF/ON
確認音を鳴らさないようにする	 (bP)	ON/OFF
チャンネル範囲を切り替える 	 (AC)	AL/bA
自動で電源を切る (APO)	 (AP)	OFF/ON
運用モードを切り替える	 (Ct)	SL/dP
2つのグループ番号を使う (二面待ち)	 (2G)	OFF/ON
マイクの感度を設定する (VOX感度)	 (GL)	1 ~ 5
会話の最後が途切れないようにする (VOX遅延時間)	 (dy)	0.1/0.3/0.5 1.0/1.5/3.0
スケルチレベルを調整する	 (Sq)	OFF/1 ~ 3
ボリュームが最小でも聞こえるようにする	 (FS)	OFF/ON
モニターキーを押したときの動作を設定する	 (SA)	OFF/tG

1 一度電源を切る

2 【P】を押しながら【POWER】を押す

電源が入り、表示部にメニューが表示されます。

3 【F】または【P】を押す

設定したい機能を表示させます（左表参照）。

4 【UP】または【DOWN】を押す

設定を選択します。



例：ランプ常時点灯

5 【PTT】を押す

設定を終了します。

また、【PTT】のかわりに【POWER】を1秒以上押すと、設定を終了して電源が切れます。



販売店での設定により、お客様がファンクション設定の変更をおこなえない場合があります。

ランプ常に点灯させる【iP】

この機能を「On (ON)」に設定すると、暗い場所で操作するときに表示部がよく見えるように、照明ランプを常時点灯させることができます。なお、通常は照明が自動的に点灯 / 消灯する自動照明機能「OF (OFF)」になっています。(→ 20 ページ)

確認音を鳴らさないようにする【bP】

キー操作をしたときに鳴る確認音をピープ音といいます。この機能を「OF (OFF)」に設定すると、このピープ音を鳴らさないようにできます。以下の警告音、予告音などはこの機能のON / OFFと関係なく鳴ります。

- バッテリー警告音 ● 通信時間制限予告音 ● APO 警告音
- 通話範囲外告知音 ● 送信禁止音 ● コールトーン
- レピーターアクセス音 ● レピーターアクセスエラー音
- PLL アンロック音 (無効音) ● 通話終了告知音 (設定ON時のみ)

チャンネル範囲を切り替える【AL】

「オートチャンネルセレクト」(→ 42 ページ)を使用する時に、スキャンするチャンネル範囲を設定します。この機能を「AL」に設定すると「1ch ~ 11ch」と「h1ch ~ h9ch」の2つのバンドを、「bA」に設定すると現在のバンド内のみスキャンします。

自動で電源を切る (APO)【AP】

この機能を「On (ON)」に設定すると、1時間59分間信号を受信せず、キー操作も行なわれなかった場合、電源を切り忘れたとみなして告知音を鳴らします。さらに同じ状態が1分間続くと、自動で電源を切ります。

モニター中やオートチャンネルセレクト中はAPOは動作しません。

運用モードを切り替える【fL】

使用目的により、「SL (シンプレックス: ノーマル運用モード)」と「dP (デュプレックス: レピーター運用モード)」の2つの運用モードから一つを選択することができます。ただし、運用モードのちがう相手との通信はできません。

2つのグループ番号を使う(二面待ち)【26】

この機能を「On(ON)」に設定すると、グループAとBの2つのグループ番号に対して個別、一斉呼出を行なうことができます。

マイクの感度を設定する(VOX感度)【66】

周りの環境や声の大きさによって、本機のマイクが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。数字が大きほどマイク感度が高くなります。

会話の最後が途切れないようにする(VOX遅延時間)【67】

VOX使用時、会話の最後が送信されない場合があります。遅延時間を設定して、会話が最後まで送信されるように調整してください。数字が大きほど遅延時間が長くなります。

スケルチレベルを調整する【59】

受信の仕方を変えるために、スケルチレベルを調整することができます。スケルチレベルを下げる(3→2→1)と、受信しづらい弱い信号を受信できます。そのときは、雑音も同時に受信します。スケルチレベルを上げる(1→2→3)と、雑音が聞こえなくなります。スケルチレベルを「OF(OFF)」にすると、常にスケルチが開いた状態になります(常時モニター)。

ボリュームが最小でも聞こえるようにする【55】

この機能を「On(ON)」に設定すると、ボリュームを最小にしても、受信音やピープ音が聞こえるようにできます。誤操作でボリュームが最小になり、受信音やピープ音を聞き逃すことを防ぐことができます。

モニターキーを押したときの動作を設定する【58】

モニターキーを押したときのスケルチのON/OFFのしかたを設定することができます。

モーメンタリー動作「OF(OFF)」:

【モニター】を押している間モニター機能がONになる

トグル動作「tG」:

【モニター】を押すたびに、モニター機能のON/OFFが切り替わる

こんな機能もあります



次のような機能もあります。これらの機能は販売店においてのみ設定可能です。

オートチャンネルセレクト

あらかじめ交信相手どうして設定しておいたチャンネルが混んでいて、連絡したいが交信ができない。このようなときに空いているチャンネルを自動的に捜してくれる機能です。

バッテリーセーブ

電池の無駄な消耗を防ぐための機能を ON / OFF できます。

コールトーン 3-1 / 3-2

本機の【P】キー、またはマイクロホンの【1】【2】【3】のどれかに、コールトーン 3-1 / 3-2 を割り当ててあるときにそのキーを押すと、コールトーンを送出することができます。

コールトーン音色変更

コールトーン 1 / 2 で出力されるコールトーンの音色を変更することができます。

通話終了告知

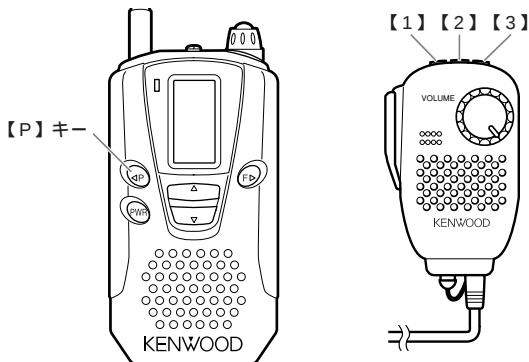
レピーター運用モード時に自局の送信が終了したことをピープ音で相手に知らせることができます。

モニター

「モニター機能」に割り当てられているキーを押したときに、強制的にスケルチを開き、信号の状態をモニターすることができます。

キー割り当て(【P】キー/リモコンキー)

本機の【P】キーとスピーカ・マイクロホン(SMC-34)のキー(【1】、【2】、【3】)に、機能を割り当てることができます。



コンパンダ

雑音を抑えて、音声のみを明瞭にする機能です。使用する場所の周りが騒がしく、音声聞き取りにくい場合に設定します。この機能を使用するには、送信局側と受信局側双方がこの機能を設定する必要があります。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください(→46ページ)。

ノーマル運用モード/レピーター運用モード共通

症状	原因	処置	参照ページ
電源が入らない	電池が消耗している	充電する	15
		予備の電池パックと交換する	14
・受信できない ・音量つまみを回しても音が出ない	【PTT】が押されて送信中になっている	【PTT】を離す	22
	グループ番号がちがう	グループ番号を相手と同じにする	25 28
相手と通話できない	チャンネルかグループ番号が違う	チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる	22 25 28
	相手との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	11
	通話モードが違っている	相手と同じ通話モードにする	24
	セレコールのIDが違う	セレコールのIDを合わす	36
どのキーを押しても表示が変化しない	キーロックになっている	キーロックを解除する	33
照明が消えない	照明の常時点灯が ON になっている	「照明の常時点灯」の設定をOFFに切り換える	38
電池がすぐ消耗する	照明の常時点灯をよく使う	常時点灯は必要なときだけ使う	38
聞き取れない音が入ったり、何も聞こえないのにLEDが「緑」に点灯する	スクランブルモードで通話しているグループがいる	そのチャンネルが空かないときはチャンネルを変更する	22 25 28
	同じチャンネルでのグループ番号を使っているグループがいる		
チャンネルセレクトを止められない	キーロックになっている	キーロックを解除する	33
・音量を大きくすると「プー」という音がする ・表示がすぐ消える	電池が消耗している	充電する	15
		予備の電池パックと交換する	14
送信ができない	LEDが「緑」に点灯している	チャンネルを変更するか、LEDが消えるのを待つ	22 25 28

その他

故障かな？と思ったら

44-その他-

レピーター運用モード使用時

症状	原因	処置	参照 ページ
レピーターにアクセスできない	アクセスエラー音が鳴らない ・レピーター運用モードになっていない	レピーター運用モードに設定する	38
	アクセスエラー音が鳴る ・チャンネル番号、グループ番号がレピーターの番号と違っている ・レピーターとの距離が離れすぎている	チャンネル番号、グループ番号をレピーターの番号と合わせる	25 28
		通話のできる距離を目安に通話する	11
相手と通話できない	相手がレピーター運用モードになっていない	レピーター運用モードに設定する	38
	相手のチャンネル番号、グループ番号が違う	グループ内のトランシーバー、レピーターはすべて同一のチャンネル番号、グループ番号に統一する	25 28
	セレコールのIDが違う	セレコールのIDを合わす	36

その他

故障かな？と思ったら

初期設定の状態に戻す（オールリセット）

設定されている内容はすべて消去され、初期の設定状態に戻ります。

1 一度電源を切る

2 【UP】と【DOWN】を押しながら 【POWER】を押す

表示が全点灯します。



3 【UP】、【DOWN】、【POWER】か ら指を離す

ピープ音が鳴ってリセットされます。
初期設定の状態に戻ります。

オプション（別売品）について

本機には、次のようなオプション（別売品）が用意されています。

- ・ EMC-2B イヤホン付きクリップ型マイクロホン
- ・ EMC-3 イヤホン付きクリップ型マイクロホン
- ・ KMC-21 スピーカーマイクロホン
- ・ HMC-3 VOX、PTT 付きヘッドセット
- ・ HMC-4 リモコン対応 VOX/PTT/TOT 切換式ヘッドセット
- ・ HS-9 プチ型イヤホン
- ・ KHS-21 ヘッドセット
- ・ SMC-34 リモコン対応ボリュウム付きスピーカーマイクロホン
- ・ UPB-3L 充電式リチウムイオン電池（3.6V 600mAh）

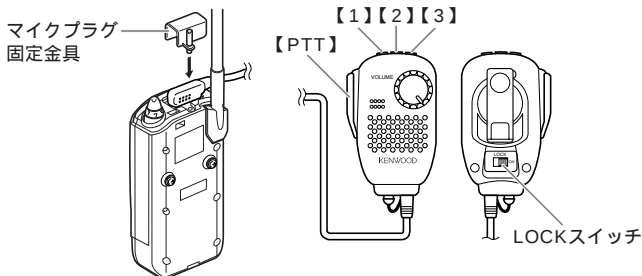
製品名のあとに(G)、(C)と表記されてる商品がありますが、これらも表記の無い商品と同一製品です。

その他

オプション（別売品）について

スピーカーマイクロホン（SMC-34）について

本機の SP/MIC 端子に取り付けます。その際、スピーカーマイクロホンが SP/MIC 端子からは外れるのを防ぐために、マイクプラグ固定金具を取り付けてください（→ 17 ページ）。お買い上げ時は、LOCK スイッチの位置が「ON」になっています。



- ・ 【PTT】（トークスイッチ）
送信するとき、このスイッチを押しながら話します。
- ・ LOCK スイッチ（背面）
このスイッチを ON にすると、マイクのための機能になり、【1】～【3】のスイッチは使えなくなります。
- ・ 【1】 【2】 【3】
本体の機能を割り当てることができます（→ 43 ページ）。

保証とアフターサービス (よくお読みください)

保証について

- 保証書 (別添)

この製品には、保証書を (別途) 添付しております。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確めのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

- 保証期間

保証期間は、お買い上げの日より 1年間 です。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」(44ページ)を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお問い合わせください。(別紙“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください。)

修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様御自身でお控え下さいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合等によって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、ケンウッドは一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- 保証期間中は・・・

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンターが修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因 (衝撃や水分、異物の混入など) による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

- 保証期間経過後は・・・

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

- 補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

- 持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

- 修理料金の仕組み (有料修理の場合は次の料金が必要です。)

技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれます。

部品代: 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

その他

保証とアフターサービス

仕様

送受信周波数	直接交信用 - ノーマルモード (12.5 kHz ステップ) 422.050 ~ 422.175 MHz (1 ~ 11 ch) 422.200 ~ 422.300 MHz (h1 ~ h9 ch) 中継交信用 - レピーター運用モード (12.5 kHz ステップ) 受信 : 421.5750 ~ 421.7875 MHz (1 ~ 18 ch) 421.8125 ~ 421.9125 MHz (h1 ~ h9 ch) 送信 : 440.0250 ~ 440.2375 MHz (1 ~ 18 ch) 440.2625 ~ 440.3625 MHz (h1 ~ h9 ch)
電波型式	F3E、F2D
周波数安定度	± 4 ppm
消費電流	送信時 (電源電圧 3.8 V)..... 80 mA 以下 受信 50 mW 出力時 120 mA 以下 受信待受時 65 mA 以下 バッテリーセーブ時 (平均値)..... 25 mA 以下
使用温度範囲	- 10 ~ + 50
電源電圧 (定格電圧)...	DC 3.8 V (マイナス接地)
対応電源	充電式リチウムイオン電池 (3.6 V、600 mAh)
送信出力	10 mW
低周波出力	50 mW 以上 (定格電圧、8 Ω 負荷、10 % 歪時)
受信感度	- 8 dB μ (0.4 μ V) 以下 (SINAD 12 dB 時)
寸法 (突起物含まず)...	幅 54 × 高さ 98 × 奥行 26 mm
質量 (重量)	約 148 g (リチウムイオン電池を含む)

そ
の
他

仕
様



古紙配合率 100%再生紙を使用しています。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525 東京都八王子市石川町2967-3

- 商品に関するお問い合わせはカスタマーサポートセンターをご利用ください。
電話 (03) 3477 - 2803 FAX (03) 3477 - 5334
- アフターサービスのお問い合わせは、お買い上げの販売店、または最寄りのケンウッド・サービスセンターにご相談ください(別紙“全国サービス網”をご参照ください)。